

# 「Web版壁新聞」の発行を通じた、地域情報の発信と活用

—子どもによる学校からの情報発信—

兵庫県加古川市立陵南中学校 教諭 中尾 美樹

ynakao@hyogo-c.ed.jp

[http://www.hyogo-c.ed.jp/~cec2005\\_kakogawacity/index.htm](http://www.hyogo-c.ed.jp/~cec2005_kakogawacity/index.htm)

キーワード：情報活用能力，文章表現力，壁新聞，地域情報，産学連携

## 1 研究のねらい

家庭にインターネットが普及し、学校現場でも高速インターネットが利用できる環境が整ってきた。また、多くの学校でホームページ（以下：HP）が開設され、学校生活の様子などが発信されている。しかし、多くのHPは教師によって作成されており、子どもから発信されている情報はまだ少ない。そこで、子どもの手によるHP上での情報発信方法を検討した。

## 2 企画の実際

### (1) Web版壁新聞の作成と公開

発信する情報は新聞形式とし、作成にはフリーソフトウェア「朝刊太郎」（作者ふくなが氏HP：<http://hp.vector.co.jp/authors/VA020605/>）を利用した。完成したWeb版壁新聞は、PDFファイル形式で発行している。また、上記HPにて、研究協力校での取組紹介、朝刊太郎・簡単マニュアル等のコンテンツを公開している（図1）。

### (2) 研究協力校での取組

#### ①西神吉小学校での実践：「PR新聞」発行（A4版6部）

本校5年生は、総合的な学習の時間に、「とどけ！私たちの想い！」というテーマで学習を進めている。世界の国々の中には、厳しい生活環境の下でも精一杯生きている子ども達が大勢いることを知り、体験し、考える中で、自分なりの課題を持ち、意欲的に課題解決に取り組む力を身に付け、自分の生き方について考えさせることがねらいである。一年間の学習成果の発表として、90人全員で創作劇「もし世界が90人の村だったら」の演劇公演を予定している。本実践では、演劇公演へ向けてのPRを兼ね、これまで学習してきたことを各クラスの代表者6名（計18名）が3人一組となり「PR新聞」にまとめた。

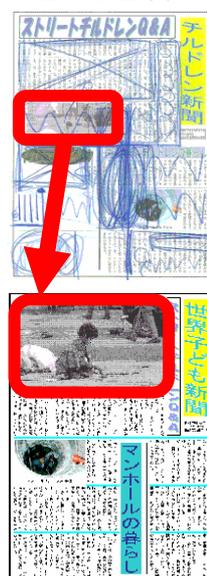
図1 コンテンツ例



#### ②氷丘中学校での実践：「HIOKA環境新聞」発行（B4版2ページ）

本校1年生各クラスの社会科係代表生徒6名が、加古川市新クリーンセンターを見学・取材し、その時の様子を「HIOKA環境新聞」として紙面にまとめた。2学期末には学年集会の場でこの新聞を配布し報告会を実施した。

図2 校正原稿



#### ③陵南中学校での実践：「陵南二十年の歴史」新聞発行（B4版2ページ）

本校では、3年生の代表生徒12名が、創立20周年を記念して、初代PTA会長、二代目校長、校歌作詞者、そして地域の文化財である「平木橋保存会」の代表者を取材し「陵南二十年の歴史」新聞にまとめた。生徒との連絡にはメーリングリスト(ML)を利用した。完成した紙面の画像の一部には動画を埋め込んだ。しかし、ファイルサイズが大きくなり、PC環境によっては開きづらくなった。（HP内の☆にあり）。

### (3) 産学連携（神戸新聞社の協力）

作成には新聞社の協力をいただき、新聞作成の技法、取材方法などの情報発信に必要な技術の向上を目指すと共に、著作権、肖像権などの情報モラルに関する講座を開設していただいた。また、児童生徒が作成したWeb版壁新聞のブラッシュアップにも助言していただいた。助言を得て作品の完成度が高まることで、子どもの達成感も高めることができた（図2）。

## 3 研究の成果

- ・ICT活用能力を向上させると共に、情報モラルについて学ぶことができた。特に、MLの利用を通して、生徒自身がルールを作り活用する中で、情報モラルを身につけることができた。
- ・伝えたいことを、よりわかりやすく伝えられる記事を書こうとする中で、文章表現力を高めることができた。
- ・取材活動を通して、また新聞記者による講座を通して、日常の学校生活では接することのない人と出会い、話をする中で、コミュニケーション力を磨いた。
- ・新聞作成の技術を身につけると共に、一般の新聞にも興味を持ち、家庭で新聞を読む機会が増えた。
- ・生徒アンケートでは、全員が、また作りたい、機会があれば作りたいと答えた。
- ・保護者アンケートでは、取組を評価する割合は高いが、HP上での公開よりも印刷配布を希望する声が多かった。